

## 日韓高校生交流プログラム オンライン交流の記録

### 1. オンライン交流概要

【目的】日韓双方で選抜された高校生が両国を理解するための講義聴講及び交流・意見交換等を通し、両国の協力・友好関係について理解を深め、広く対外発信することにより、両国の協力関係の重要性を広めることを主目的とする。

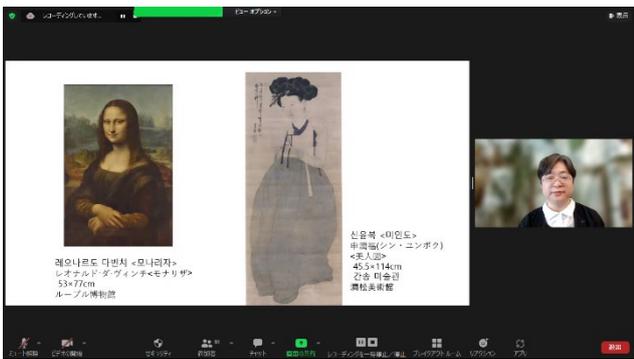
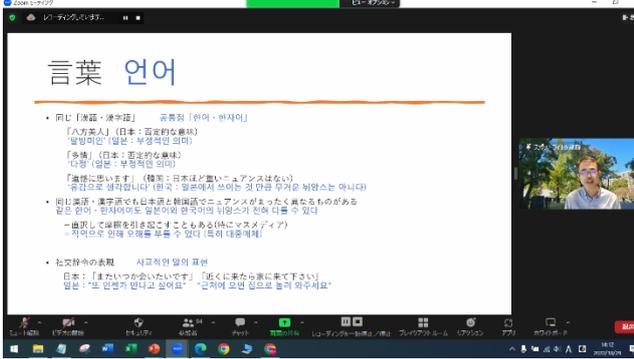
【参加者】日韓両国の高校生 84名

#### 【日程】

日にち 訪問地	内容	参加者の質問・反応（参加者の人数 実績）
1回目 10月22日	<p>【オリエンテーション】</p> <p>【テーマ関連講義・質疑応答】</p> <p>「風俗画を通してみる韓国伝統文化の特徴」</p> <p>講師：芸術企画タハム代表 イ・ヨンジョン氏</p> <p>① 聴講</p> <p>② 質疑応答</p> <p>【交流・意見交換】</p> <p>① グループ別に自己紹介及び自国の魅力紹介</p> <p>② 紹介された内容について意見交換</p>	<p>講義では、北東アジアにおける風俗画の流行りや過去の楽しみ方などについての質問がありました。</p> <p>グループ別交流では、両国の学生が相手国の言語で自己紹介を行い、それぞれが暮らす地域の魅力を紹介することで、相手国への関心が高まりました。（参加者：84名）</p>
2回目 10月29日 滋賀県、 徳島県、 福井県、 富山県	<p>【テーマ関連講義・質疑応答】</p> <p>「日韓：似ているということは」</p> <p>講師：東京都立日比谷高等学校 講師 武井一氏</p> <p>① 聴講</p> <p>② 質疑応答</p> <p>【視察・意見交換】</p> <p>① 学校生活などを各自制作の動画で紹介</p> <p>② 紹介された内容について意見交換</p>	<p>講義では、日韓基本条約に対する両国の捉え方に関し、韓国側参加者より「センシティブな問題について、参加者が分かりやすいように説明してくれて有難かった」という反応がありました。</p> <p>グループ別交流では、それぞれの学校生活を動画で紹介し、身近な共通点を通じて相互理解を深めました。（参加者：84名）</p>
3回目 11月5日	<p>【交流・意見交換】</p> <p>① 「日韓間の学生共同宣言または未来に向けた約束」について意見交換</p>	<p>総括として、本プログラムで得た参加者同士のつながりを今度どのように継続させていくのかに</p>

	<p>② 発表準備 【成果報告会】</p>	<p>ついて意見交換を行い、両国の友好協力関係の重要性及び継続した交流の必要性を参加者全員で確認しました。(参加者：84名)</p>
--	---------------------------	--

## 2. 記録写真

	
<p>2022年10月22日【テーマ関連講義・質疑応答】 「風俗画を通してみる韓国伝統文化の特徴」</p>	<p>2022年10月22日【視察・意見交換】自国の魅力紹介</p>
	
<p>2022年10月29日【テーマ関連講義・質疑応答】 「日韓：似ているということは」</p>	<p>2022年10月29日【視察・意見交換】学校生活などを各自制作の動画で紹介</p>

## 3. 参加者の感想（抜粋）

### ◆ 韓国 高校生

日本側の講義で、韓国と日本両方の立場を中立的に紹介してくれたことがよかったです。また、日本の地域と学校生活の紹介動画を通じて、韓国には知ることのできない日本について、たくさん知ることができました。

### ◆ 韓国 高校生

日本の地域文化を詳しく知ることができ、日本は近い国ですが異なる点も多いことを認識するようになりました。また、なかなか出会うことのない日本人の友達を作ることができてよかったです。

◆ 日本 高校生

自分たちで制作した動画を用いて、日本についてアピールできてよかったです。制作には少し苦労しましたが、動画をきっかけに深く話し合えたので有意義な時間でした。

◆ 日本 高校生

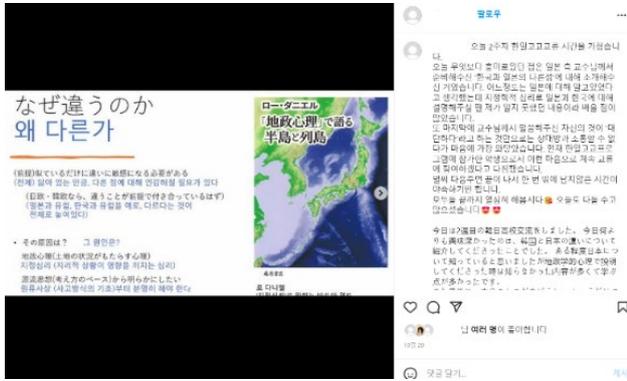
グループでの意見交換を通じて、お互いのことや地域について話すことができよかったです。最初の意見交換ではお互いのことを全く知らない状態でしたが、話すことで徐々にお互いの文化などを知ることができました。また様々な話をするのができたおかげで、私が持っていた偏見などに気づくことができました。

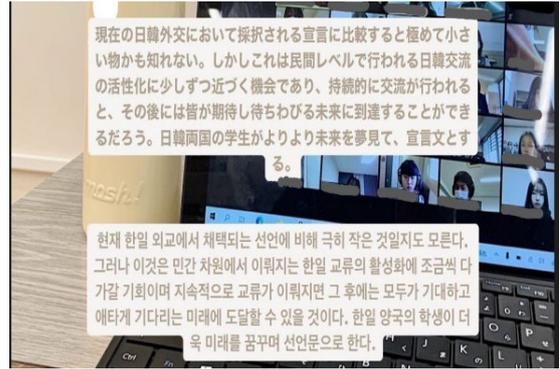
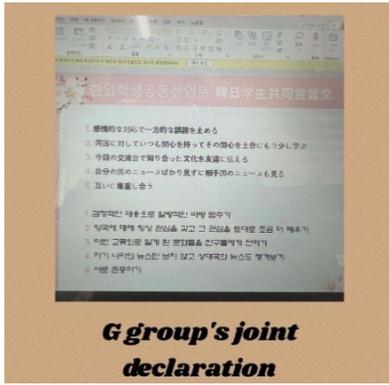
4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 韓国側実施機関（韓国長安大学関係者）

オンラインではありますが両国の学生が出会い交流したことで、韓国と日本は“似ているようで異なることも多い”ということを知るきっかけになったかと思います。今回参加した彼らには、異なるということを経験した上で、これからの日韓関係を引っ張っていく存在になってほしいです。また実施後のアンケートを通じて両国の学生がオフラインでの再会を望んでいることが分かりましたので、新型コロナウイルス感染症が収束した際には、再会できる機会を設けられたらと思います。

5. 参加者の対外発信、報道記事等

	
<p>2022年10月29日（Instagram）</p> <p>今日の講義で興味深かったことは、韓国と日本の違いについての説明でした。これまでも、ある程度日本について知っていると思っていましたが、地政学的心理を基に説明して下さったことで、新たに様々なことを学ぶことができました。</p>	<p>2022年10月29日（Instagram）</p> <p>日本側の講義では、お互いに漢字を使う国なのに言葉の解釈が異なることが分かり勉強になりました。また、日韓の問題についてお互いの立場を分かりやすく話して下さったので、意味深い時間となりました。</p>



2022年11月5日 (Instagram)

日韓学生共同宣言文

1. 感情的で一方向的な誹謗を止める
2. 両国に対し常に興味を持ち、それを土台として学びへと発展させる
3. 今回の交流を通し、知り得た知識を友達に伝える
4. 自国のニュースを見るだけでなく、相手国のニュースも見る
5. 互いに尊重し合う

2022年11月5日 (Instagram)

私たちの日韓学生共同宣言は、日韓外交において採択されているものに比べると極めて小さいものかも知れない。しかしこれは民間レベルで行われる日韓交流活性化へ近づく機会であり、交流が持続的に行われることで、皆が期待し待ちわびている未来へ到達することができるだろう。そんな未来を夢見て、日韓両国学生の宣言文とする。



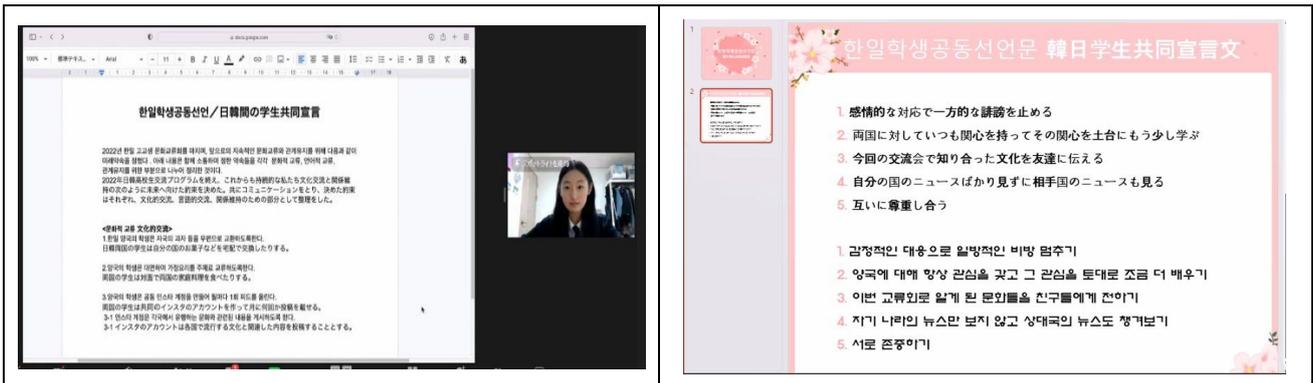
2022年10月24日 (福井新聞)

「(見出し) 日韓文化 高校生学びあう」  
参加者が福井県について、「恐竜で有名」「眼鏡フレームをたくさん生産している」と紹介した様子や、「ネットに載ってない現地のリアルな暮らしを学びたい」などという参加者の意気込みが掲載されました。

2022年11月9日 (北日本新聞)

「(見出し) 互いの文化に理解」  
郷土の魅力を紹介したことや、「日韓間の学生共同宣言または未来に向けた約束」について意見交換及び発表を行ったことについて紹介されました。

## 6. 報告会での発表内容（抜粋）



本プログラムで得た日韓両国の参加者のつながりを継続・発展させることを目指し、グループ毎に「日韓間の学生共同宣言」を発表する機会を持ちました。主な内容は次のとおりです。多種多様な宣言がなされるとともに、日韓間における相互理解の促進及び友好協力関係の増進について、改めてその重要性を唱える意見が数多く寄せられ、参加者間での認識を共にしました。

### ●宣言文の一部を抜粋

- ・新型コロナウイルス感染症が収束した際には、再会する機会を設ける
- ・今回の交流で知り得たことを、周囲の人たちに伝える
- ・お互いの国の言語や文化について学ぶ
- ・自国のメディアだけではなく、相手国のメディアからも情報を得るようにする
- ・両国の間で政治的摩擦が起きた時は、お互いの国の立場に立って考えてみる
- ・今後も SNS などで連絡を取り合う

実施団体名：公益財団法人日韓文化交流基金